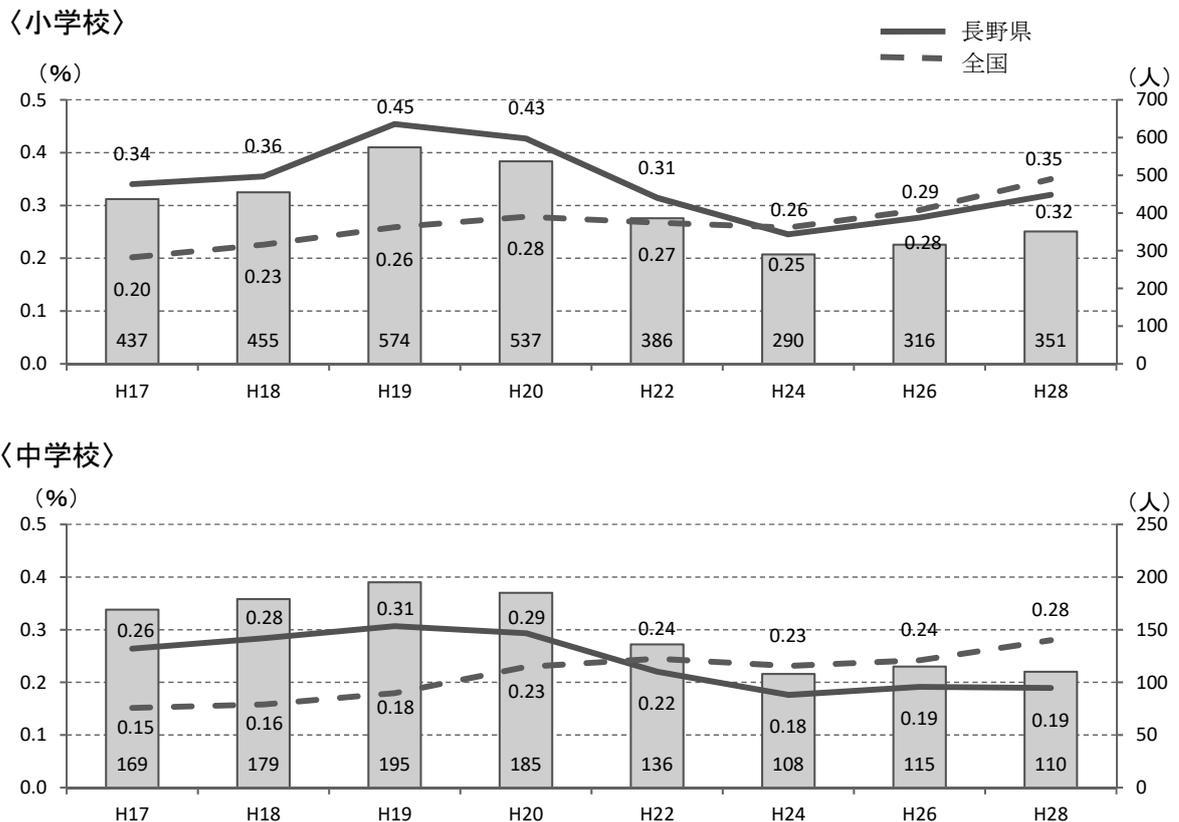


(3) 多様なニーズを有する子ども・若者への支援

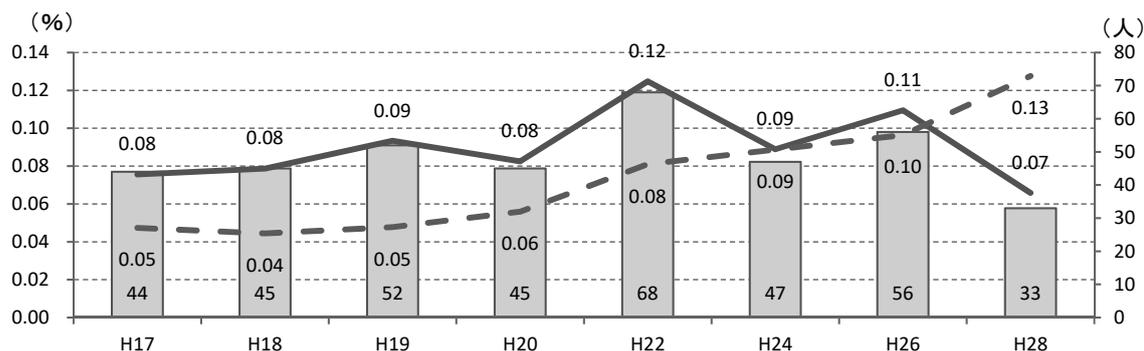
現状と課題

- 若年無業者（ニート）は増加傾向です。また、ひきこもりの若者は減少しているものの、依然として多数存在しています。ニートやひきこもりなどの困難を抱える子ども・若者が社会的に自立できるように、個々の状況にあわせた支援の充実が必要です。
- 複雑・多様な背景によりニート・ひきこもり状態である子ども・若者への重層的な支援の充実が必要です。
- 日本語の指導が必要な児童生徒は近年増加傾向にあり、一層の支援体制の充実と専門性を備えた教員を育成するとともに、経済的に恵まれない児童生徒が不就学状態になることを防ぐ必要があります。

図5-(3) 日本語指導が必要な外国籍児童生徒の割合の推移（公立）



〈高等学校〉



文部科学省「平成28年度 日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」(隔年実施)

目指す成果

- ◆ 支援が必要な子ども・若者に対し、相談から自立に至るまで切れ目なく支援できる体制づくりを図ります。

主な施策の展開

多様なニーズを有する子ども・若者を支援するために、次のような取組を進めます。

① 若年無業者（ニート）、ひきこもり等の子ども・若者への総合的支援

- 支援機関同士が効果的に連携しながら複雑な困難を抱える子ども・若者に対応するため、子ども・若者支援地域協議会を運営します。
- ひきこもり支援センターにおいて、当事者・家族等への相談対応、相談担当者・支援関係者への研修、保健福祉事務所や市町村等への技術的支援、ひきこもりサポーターの養成等を行います。
- 社会生活を円滑に営む上で、困難を有する子ども・若者が安心して通うことができる居場所等を運営する民間団体に助成し、社会的自立を支援します。また、有効な支援を提供できる団体や支援者を育成します。
- 職場体験学習などの体験的な学習を通じ、児童生徒が学ぶ目的や働く意味を考える教育を推進します。
- ハローワークや地域若者サポートステーション、市町村、NPO等と連携し、若年者の意識やスキルにあわせて、職業意識の形成や職業の方向付け、就職先紹介などを行い、若年者の就業を促進します。
- 直ちに就労することが困難なひきこもり等の生活困窮者に対し、就労に向けた生活習慣の形成、社会的自立のための支援を行います。

② 外国籍等児童生徒への教育

- 外国籍等児童生徒への教育支援のため、日本語指導を行う教員や相談員を配置するとともに、

指導方法等についての研修会を通じて指導にあたる教員の資質向上を図ります。

- 県民、企業、行政の三者が協働して、母国語教室に通う経済的に恵まれない児童生徒や教室への援助を行うことにより、不就学の減少を図ります。



外国籍児童就学支援(サンタ・プロジェクト)の募金活動

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
子ども・若者支援地域協議会における支援者のうち支援が完了又は継続している者の割合	81.0% (2016 年度)	現状以上 (2022 年度)	次世代サポート課調べ

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する 2023 年度に把握できるものとしています。